

# 令和8年産 JA米コシヒカリ栽培こよみ

●射水市農業技術者協議会  
●射水市  
●富山県高岡農林振興センター  
●高岡地域農業共済センター  
●全農とやま

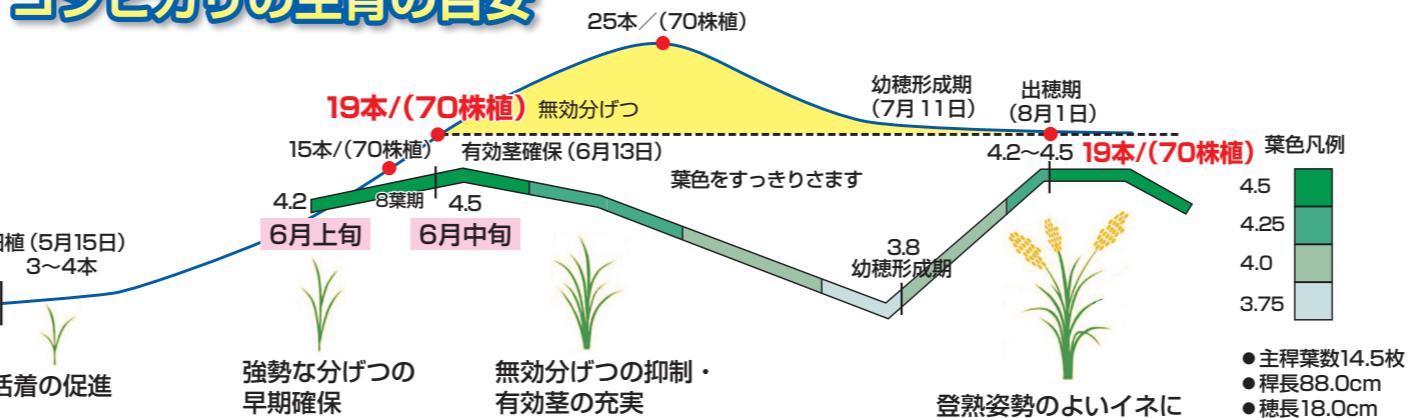
## 収量構成の目安

収量	540kg/10a
m <sup>2</sup> 当穗数	400本
1穗着粒数	70粒
千粒重	22.5g
登熟歩合	87%

## 最重点技術項目

- 5月15日中心の田植え
- 健苗育成
  - ①育苗日数19日程度
  - ②温度管理・換気の徹底
- 70株植・植付深さ3cm
- 初期茎数の早期確保
- 田植後4週間までの中干し
- 出穗後20日間の湛水管理

## コシヒカリの生育の目安



## 消費者に喜ばれる米づくりを!!

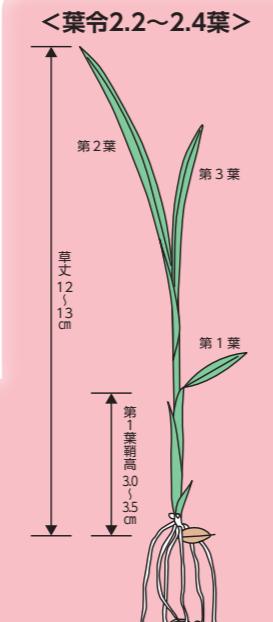
- 品質を重視した米づくり！  
1等米比率95%以上を目指そう！
- 消費者に信頼される米づくり！  
全量種子更新！  
栽培記録の徹底！  
農薬の安全使用基準の遵守！  
富山県適正農業規範(とやまGAP)の実践！

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月				
生育ステージ		播種期	育苗期	活着期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期				
水 管 理				やや深水 水深5cm	浅水 水深3cm	深水	中干し (除草剤散布の場合) 間断かん水 飽水管理 幼穂形成期以降	※高温が予想される場合は、ほ場を乾かさないよう、こまめな水管理 出穗後20日間は湛水状態 水深3cm	間断かん水 刈取7日前まで			
管理作業	土壤改良資材施用 (4/17)	浸種 (4/25~27)	播種 (5/1)	育苗 (4/25~27) 育苗期間は18~20日	田植 (5/15)	溝掘り (6/上旬)	中干し(溝の手直し) (6/12)	一斉草刈り (6/下旬~7/上旬) 出穗7日前の葉色の確認 (7/25頃)	1回目防除 (出穗期) (8/1頃) 2回目防除 (穂割期~傾穂期) (8/8頃)	落水 (8/8頃)	刈取り (8/8頃)	秋耕・土壤改良 資材施用

## 品質向上のための対策ポイント

### 対策1 土づくり ~異常気象に対応~

- 土壤改良資材の散布
  - 土壤に不足する成分を補うため、珪酸質資材100kg/10a施用。
- 深耕し
  - ゆっくりと耕起し、作土深は15~18cm以上を確保する。
- 有機物の施用
  - 稻わら、糞糞は全量さき込む。
  - 緑肥を活用する。(大豆前作のヘアリーベッヂ、大麦などのクロタラリ)
- 畦づくり・畦塗り
  - 水漏れ防止や20日間湛水に備えた畦の高さの確保。



### 対策3 高温登熟の回避 ~5月15日中心の田植え~

- 田植えは5月15日を中心に行う
- 直播の導入・拡大
  - 田植時期を遅らせたとの同様の効果があります。

### 対策5 適正生育への誘導 ~田植後4週間までの中干し開始~

- 田植後4週間までの中干し開始 (遅れずに実施)
  - 6月上旬までの軽い田干しと溝掘りの実施
  - 適期中干し開始で弱小分けつの抑制と根の伸長促進。
  - 溝の連結・手直しによる排水促進。



### 対策4 初期茎数の早期確保 ~しっかりとした良質な穂につなげる~

- 栽植株数70株/坪
- 植付本数は3~4本/株、植付深さは3cm
- 基準施肥量の遵守

基準施肥量(kg/10a)	地域		肥効調節 Jコートコシヒカリ2号 (田植同時・側条)	分施(全層) 基肥206 (田植前) (田植直後)
	作付・片口・七美・高岡・海老江・本江 新湊・新湊・塙原	28		
内 大島・浅井・鶴田・水戸田・二口 下 大江・戸破・小杉・橋下条 小杉 金山・池多・黒河	28	20~30	10~15	10
28	28	10~15	10	10
28	28	20~30	10~15	10

- 田植後の適正な水管理の徹底
  - 活着促進の早朝かん水、日中止水による湛水管理の実施。
- 除草剤の適正使用
  - 適期を逃さず、遅れず散布する。
  - 田植同時で散布する場合は、軟弱苗を使用せず、薬害軽減のため田植え時に田面が硬くなりすぎないように注意する。

### 対策7 登熟期間の稲体活力向上 ~生育に応じた追肥と水管理の徹底~

- 生育状況を確認して的確な追加施肥を施用 (穗割期葉色4.2~4.5)
  - 出穗7日前の葉色が4.0以下(砂壤土4.2以下)と、さめているほ場は、出穗3日前までに追肥する(窒素量で0.7~1.0kg/10a)
- 幼穂形成期から出穂までは飽水管理 (足あとに水が残る程度まで減ったら水を足す)
- 出穂から20日間は湛水管理を徹底 (田面が出ないよう水深3cmを保つ)
- 刈取7日前までの間断かん水の実施 (足あとに水が無くなったら水を足す)



### 対策2 健苗育成 ~田植日に応じた育苗管理~

- 種子
  - 消毒済み種子を使用する。
  - 十分浸種し、催芽を揃える。
  - 消毒効果を高めるため、浸種始めから2~3日間は水を交換しない。
- 播種
  - 4月25~27日頃に播種する。
  - 播種量 乾粉120g/箱の徹底
  - 苗箱施薬 ブーンレバード箱粒剤を施薬(農協から購入する苗は施薬済み)
  - 密苗の場合は、1kg/10aとなるように50~100g/箱で調整する。
- 育苗管理
  - 播種翌日から田植日までの日数は19日程度とし、老化苗を防ぐ。
  - ハウス搬出直後から換気を徹底し、緑化後はすみやかに被覆資材を外す。
  - 気象状況に応じた適切なかん水、ハウスの換気を徹底し、ヤケ苗や病害の発生を抑える。

通常の育苗	密苗
1箱当たり50g	1kg/10a (1箱当たり50~100g)

### 対策6 病害虫防除の徹底 ~適期に必ず実施~

- 大麦あとほ場では雑草処理を徹底
- 一斉草刈りによりカメムシ類の密度を抑制する
- 2回の本田基本防除を確実に実施
  - 1回目 ビームエイトスタークルゾル
  - 2回目 ラブサイドK2フロアブル
  - 防除の間隔は10日以上あけない。

### 対策8 適期刈取の徹底 ~胴割粒の発生防止~

- 積算温度1000~1050°C、  
粉黄化率85~90%での適期収穫
- 高温年の場合は、積算温度950°C、粉黄化率80%で刈り始める。



### 刈取適期 (粉黄化率85~90%)



◎カントリーの利用を拡大し、米の販売を有利に進めよう！！